

登録コード	L1831400	開講年度	2026				
担当教員	豊岡 康史			副担当			
授業科目	東洋史基幹演習Ⅳ						
英文授業名	Asian History: Basic Seminar Ⅳ						
授業タイトル	漢文史料講読の基礎						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	水曜・5時限
講義室	人文５０１演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	２０２６Ｌカリ，２０２５Ｌカリ，２０２４Ｌカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			⇔	専門的な辞書等を利用して史料を読解し、また先行研究などを用いて、その内容を批判的に分析し、情報を引き出せるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	環境共生、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	19世紀初頭に成立した『嘯亭雜錄』『嘯亭統録』という清朝官界噂話を集めたテキストを輪読する。今期はとくに『嘯亭雜錄』巻一～巻四をとりあげる。 部分ごとに報告担当者を割り当て、担当者は原文・日本語訳・語釈・資料から引き出せる情報・参考文献を記載したレジュメを準備して、内容を報告する。そのうえで、全員で翻訳・語釈を検討する。担当者は質疑応答の内容や教員からの指摘をふまえて、学期末に内容を補訂した修正資料を作成・提出する。 この演習では漢文史料を取り上げるが、習得が期待される能力は、言語にかかわらない史料分析の手法である。漢文を読むことを主たる目的としている訳ではないことに注意されたい。						
授業計画	第１回：ガイダンス テキスト概略 第２回：テキスト検討箇所・担当者確定 第３回：『嘯亭雜錄』巻一(1) 第４回：『嘯亭雜錄』巻一(2) 第５回：『嘯亭雜錄』巻一(3) 第６回：『嘯亭雜錄』巻二(1) 第７回：『嘯亭雜錄』巻二(2) 第８回：『嘯亭雜錄』巻二(3) 第９回：『嘯亭雜錄』巻三(1) 第１０回：『嘯亭雜錄』巻三(2) 第１１回：『嘯亭雜錄』巻三(3) 第１２回：『嘯亭雜錄』巻四(1) 第１３回：『嘯亭雜錄』巻四(2) 第１４回：『嘯亭雜錄』巻四(3) 第１５回：総括／授業アンケート／修正版にかかわる連絡 定期試験なし ※分析の進み具合に合わせて変更される場合がある。						
成績評価の方法	報告担当当日の準備資料・報告内容(40%)・授業参加態度(20%)・期末修正レジュメ(40%)を総合して評価する。						
成績評価の基準	・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた的確な分析ができていれば「卓越している」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた妥当な分析ができていれば「卓かなり上にある」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であり、くわえて他の史資料を踏まえた分析ができていれば「やや上にある」といえる。 ・担当箇所の読解が正確であれば、「合格水準にある」といえる。						
事前事後学習の内容	報告準備および修正レジュメの作成には丁寧にあたること。内容理解とそれをレジュメ・報告に反映するには、相応の準備時間が必要となる。						
履修上の注意	・報告担当週の欠席は、原則として「不可」となる。 ・現代中国語の知識は前提としないが、あったほうが便利ではある。 ・近世以降の漢文史料の分析は、『中日大辞典』および『漢語大詞典』『大漢和辞典』の利用を前提とする。図書館・資料室などの所蔵を確認されたい。 ・各種データベースについては、授業の中で説明する。						
質問、相談への対応	必要に応じてtoyooka@shinshu-u.ac.jpに連絡すること。						
教科書	『嘯亭雜錄』（清代史料筆記叢刊、中華書局、1997年） 必要な部分のコピーは、教員が用意する。						
参考書	『《世界歴史大系》中国史４ 明～清』（山川出版社、1999年）						

参考書	宮崎市定『雍正帝』（岩波新書、1950年） 宮崎市定『科挙：中国の試験地獄』（中公新書、1963年） その他、授業中に紹介する。
-----	--